

**〈東京都教育目標〉**  
 子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願う。

**〈練馬区教育目標〉**  
 学校教育と社会教育との緊密な連携のもとに、人間尊重の精神を尊び、心身ともに健康・安全で知性と感性に富み、広く国際社会において信頼と尊敬が得られる人間性豊かな子供の育成を図る。

**〈学校教育目標〉**  
 人間尊重の精神を踏まえ、世界の平和と人類の幸福を考え、行動することのできる人間の育成を目指し、次のような資質・能力を育てる。

- 1 心豊かな人
- 2 健康な人
- 3 考える人
- 4 共に生きる人

**〈学校・地域の実態〉**  
 生徒は明るく素直であり、元気な挨拶ができ、特別活動や体験学習に積極的に取り組む。家庭や地域は学校に協力的である。

**〈目指す学校像〉**  
 ・保護者にとって、安心して子供を登校させることができる学校  
 ・笑顔があふれ、明日も登校したくなる学校  
 ・夢や希望を育み、自己実現を支え、「チーム」として、迅速に課題を解決する学校

**〈学校経営方針〉**

- ① 各教科において育成すべき資質・能力の内容を明確化する。
- ② 基礎・基本の定着を図るとともに、学習指導要領の趣旨およびいじめの未然防止など人権教育の趣旨の実現に向けた授業を展開する。

**〈各教科の指導の重点〉**  
 各学力調査の結果を分析し、生徒の学び残しやつまづきの原因を追究するとともに主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進める。  
 言語活動の充実を図るために、自分の考えをもち、他者と伝え合い、再び自分の考えを深めるという自分の言葉で表現できる生徒の育成を目指す。そのために、基礎的・基本的な知識・技能をより確実に習得させることに努める。

**〈総合的な学習の時間の指導の重点〉**  
 ガイダンスを重視し、啓発的な体験学習を通して社会と関わり、知識や技能と生活を結び付け、課題解決能力を育成する。

**〈キャリア教育の指導の重点〉**  
 社会人として自立していくために、学ぶことと自己の将来とのつながり等を意識させたキャリア形成を図る。3年間を見通した体験学習等を取り入れる。

**〈学力向上の目標と方策〉**  
 育成すべき資質・能力を明確にし、生徒にとって楽しくわかりやすい授業づくりに向け、以下に示す方策を重点的に進める。

1. 知識および技能の習得  
 →個別学習や習熟度に応じた指導の充実。
2. 思考力・判断力・表現力等の育成  
 →タブレットの活用や問題解決的な学習の充実。
3. 家庭学習の定着および主体的な学習態度の育成  
 →めあての設定とまとめを正対させる授業づくり。
4. 3観点に基づいた適正な学習評価の実施  
 →指導と評価の一体化のため評価の精度を高める。
5. 読書活動や学校図書館活用の推進  
 →学校図書館を活用した教育活動を一層進める。

**〈道徳教育の指導の重点〉**  
 「考え、議論する道徳」への授業改善を図るために、道徳教育推進教師が中心となり、評価計画を充実させ、「人間としての生き方についての考えを深める」の視点を重視した授業を展開する。  
 道徳授業地区公開講座では、テーマに沿った授業を行い、保護者・地域の方と意見交換を行う。

**〈特別活動の指導の重点〉**  
 学級活動、学校行事、生徒会活動、部活動を通して、社会性や協調性を育て、健全育成を図る。

**〈生活指導の重点〉**  
 いじめや不登校等の未然防止に向け、指導体制や見守り体制を確立する。  
 いじめの早期発見・解決に向け、生活アンケートを実施し、組織的な指導や支援を行う。  
 挨拶の励行、聞く態度、話す態度、時間を守る等の指導を全教職員が率先垂範で示し指導にあたる。

**本校の授業改善に向けた視点**

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査の分析</li> <li>観点別学習状況の評価分析</li> <li>上記資料による学習状況・学習実態の把握。</li> <li>分析結果を反映させた授業改善推進プランの実施</li> <li>授業のわらいや目標の明確化</li> <li>主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導法の改善や各教科での言語活動の充実</li> <li>ICT機器を活用した生徒への適切な指導・助言</li> <li>不登校生徒に対する登校への声掛けと、受け入れ態勢の用意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学科、英語科における習熟度別少人数授業の実施</li> <li>学期ごとに習熟度少人数授業の編成および組み合わせ変更</li> <li>行事の精選と縮小</li> <li>朝読書の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善推進プランの検証を踏まえた研究授業の推進</li> <li>学期ごとにおける適切な評価評定の在り方や指導との一体化</li> <li>ICT機器など各種機器を活用した授業の研修</li> <li>学習指導要領に合わせた指導計画の検証、改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の授業における観点別学習状況把握のための資料収集</li> <li>適切な評価評定の在り方の検証、改善</li> <li>学習指導要領における評価の検証、改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コーディネーターを通して地域社会との連携を強化し、学校教育への積極的参加の推進</li> <li>学校関係者評価を十分に活用し、地域社会と学校が一体となった教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫を踏まえ、学習面のみならず生活面における支援の推進(中1)</li> <li>小中が互いの特性を生かした乗り入れ授業などの工夫の推進</li> <li>校区別協議会で「目指す15歳の姿」に向けて3分科会7グループにおける研究の推進と充実</li> <li>小中一貫教育の取組プログラムの作成と改善</li> </ul>

**授業改善策の検証方法**

- ・管理職による授業観察や、研修担当による校内研究授業を行い、授業改善策の成果を各教員にフィードバックする。
- ・学期ごとに教科部会を実施し、内容別・観点別の分析を行い、授業改善策の成果と課題を検証し、次年度の計画に取り入れる。